

～高松城～

城郭は古来より防衛拠点として、または権力の象徴として全国に築城されました。四国においては、愛媛県の松山城跡や高知県の高知城跡、徳島県の徳島城跡などの、国の指定を受けた史跡の城郭が多数存在しております。ここでは、香川県を代表する史跡土木構造物である高松城の紹介をします。

図－1に往時の高松城全体の状況を表した屏風の一部を示します。高松城は瀬戸内海に面しており、全国でも有数の水際城として有名です。堀には海水を取り込む構造を有しており、伊予国今治城や豊前国中津とともに三大水際城として数えられます。また、築城当時は港としての機能しており、港湾都市としての発展の重要施設であったことが考えられます。

表－1に高松城略年表を示します。高松城は天正16年（西暦1588年）に当時の高松藩藩主、生駒親正により築城されました。宝永、安政、昭和に南海地震を経験しましたが、大きな崩壊は発生した跡は存在しておりません。また、高松城の天守閣は老朽化により明治17年（1884年）に解体され、現在では天守台のみが残っております。

図－2に高松城天守台の状況を示しています。築城当時の高松城の天守閣は四国最大の規模でした。また、内堀に面しており、水面に浮いたように見えていたようです。天守閣解体後には松平頼重を祀った玉藻廟が建立されましたが、それも現在では解体され、今では天守台のみが存在感を持って残っております。



図－1 高松城全体状況<sup>1)</sup>  
表－1 高松城略年図<sup>2)</sup>から抜粋，加筆

| 和暦   | 西暦   | 主な出来事         |
|------|------|---------------|
| 天正16 | 1588 | 生駒親正が高松城築城に着手 |
| 寛文10 | 1670 | 天守修築完成        |
| 寛文11 | 1671 | 東ノ丸・北ノ丸の造営開始  |
| 延宝5  | 1677 | 良矢倉完成         |
| 宝永4  | 1707 | 宝永南海地震発生      |
| 安政1  | 1854 | 安政南海地震発生      |
| 明治17 | 1884 | 高松城天守解体       |
| 明治23 | 1890 | 松平家へ払い下げ      |
| 昭和21 | 1946 | 昭和南海地震発生      |
| 昭和29 | 1954 | 高松市の所有となる     |



図－2 高松城天守台解体前状況

図-3に高松城天守台修復工事の状況を示します。高松城は築城から420年が経過しております。高松城天守台は経年劣化により石垣の孕み出しや石材の割れが顕著になり、崩壊の危険性が示唆されました。老朽化の解消のため、2007年から修復解体工事が開始されました。数年後には修復が完了した石垣が解体以前の威風堂々とした姿が見られる予定です。



図-3 高松城天守台修復工事状況

図-4に高松城天守台内部盛土における試験状況を示します。香川大学は高松城解体修復工事に伴い、石垣内部の調査を実施してきました<sup>3)</sup>。現在では、石垣石材の調査を実施しながら、少しでも修復工事の力になれるよう日々、精進しております。香川大学では、今後とも高松城天守台石垣の修復工事に全力をもって協力していく予定です。



図-4 高松城内部盛土調査状況

#### まとめ

ここでは土木の重要文化財として高松城を紹介しました。重要文化財としての土木構造物は、歴史的価値とともに土木技術の素晴らしさを教えてくれます。そのような土木構造物を未来に残すことは土木に携わる者の責務であると考えられます。未来へ繋がる土木が土木分野の発展のための課題になるのではないのでしょうか。また私事ですが、普段触れることのできない歴史的に価値のある文化財を対象とした研究を実施することができ、貴重な体験ができたことを、ここに感謝したいと思います。

#### 参考文献

- 1) 香川県歴史博物館：海に開かれた都市，平成19年度特別展「海に開かれた都市～高松－港湾都市900年の歩み～」図鑑，2007.
- 2) 大嶋和則：高松城石垣の解体と調査，第6回全国城跡等石垣整備研究会発表概要，文化庁・松山市・松山市教育委員会，2009.
- 3) 石川照久，山中稔，長谷川修一，大島和則：高松城天守台内部盛土の土質物性について，土木学会四国支部 平成20年度技術発表会講演概要集，pp.3~4，2008.9.